

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立須知高等学校 】

1 実践テーマ	【Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ】
2 実施対象者	京都府立須知高等学校 1年：60名、2年：64名、3年：53名 合計177名 京丹波町立中学校ホッケー部員
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 部活動 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 (全京都車いす駅伝競走大会、2019 京都丹波 ロードレース大会、京都府立特別支援学校高等部スポーツ 交流会) ② その他 ( )
4 目 標 (ねらい)	1 生徒一人一人にスポーツの価値を気付かせるとともに、生涯ス ポーツの基盤を養成する。 2 障害者スポーツ等のボランティアに積極的に参加することで、 自己肯定感を醸成させる。
5 取組内容	1 全京都車いす駅伝競走大会へのボランティア活動 (1) 日時：令和元年9月1日(日) 午前8時から午後4時まで (2) 会場：京都府立丹波自然運動公園陸上競技場 (3) 参加者：京都府立須知高等学校運動部員(18名) (4) 内容：車いすの選手の誘導補助、交通整理、給水所での給水 係や救護補助等を行った。地域で行うスポーツボラン ティア活動に参加することで、地域の活性化に寄与する ことができた。(新聞記事掲載あり) 2 京都府立特別支援学校高等部スポーツ交流大会へのボランティ ア活動 (1) 日時：令和元年10月5日(土) 午前9時45分から午後3 時20分まで (2) 場所：グリーンランドみずほ (3) 参加者：京都府立須知高等学校運動部員(33名) (4) 内容：交流大会の補助として、卓球の部(得点係)、卓球バ レー(得点係)、ソフトボールの部(時間計測、得点 係等)でボランティア活動を行った。昼休みにはフラ ンシングディスク、ボッチャの2種目を特別支援学校 の生徒とともに競技し、交流を図った。



### 3 □丹波高等学校体育連盟ホッケー事業での中高連携

- (1) 日時：令和元年 10 月 13 日（日）午前9時から午後5時まで
- (2) 場所：グリーンランドみずほ ホッケー場
- (3) 参加者：京都府立須知高等学校ホッケー部員（25名）  
京丹波町内の中学生（12名）
- (4) 内容：□丹地域内にある中学校・高等学校ホッケー部に所属する中学生、高校生を対象に、中学生の11人制ホッケー競技大会に向けての強化練習会を実施した。



### 4 2019 京都丹波ロードレース大会でのボランティア活動

- (1) 日時：令和元年 11 月 3 日（日）午前9時から午後3時まで
- (2) 場所：京都府立丹波自然運動公園陸上競技場
- (3) 参加者：京都府立須知高等学校運動部員（19名）
- (4) 内容：大会運営の補助として、選手受付、用器具の配置及び撤収、給水所補助を行った。また、公園内競技運営補助として、記録証の配布、ランナー誘導などを行った。

## 6 主な成果

京丹波町で開催された各種のスポーツ大会において本校運動部員がボランティア活動に参加して、大会運営の方々をはじめ大会に参加された選手の方々からも感謝の言葉をかけていただけたので、生徒の自己肯定感を醸成させることができた。障害の有無にかかわらず、スポーツを通して交流できたので、スポーツを通したインクルーシブな社会（共生社会）の構築につながるものと思われる。さらに、スポーツの価値を改めて認識するとともに、スポーツに対する興味・関心をより一層向上させることができた。学校としても地域で開催されるスポーツの大会にボランティアとして生徒が参加することで、地域貢献できたことは大きな成果であった。

ホッケー競技を通じた中高連携事業では、中学生の競技力向上はもとより、1988年に京都府で開催された第43回国民体育大会以



	降、京丹波町のまちのスポーツとして親しまれているホッケー競技を継続・発展させるための事業の一つとして成果をあげることができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	ボランティアに参加する運動部員の割り振りを年度当初から行っていたので、運動部員全員に参加させることができた。大会の開催日時を事前に調べて、ボランティア派遣依頼文書が届くまでに運動部顧問とも日程調整することができたので、公式戦等とも重なることもなく円滑に参加できた。京丹波町内で開催される大きなスポーツ大会にボランティアとして運動部員が全員参加できるのは本校の特色である。
8主な課題等	年度当初に計画していた12月でのボランティア清掃ができなかったが、年度内には生徒会が主催して実施できるようにしたい。 中高連携事業については、日程の都合上、一つの中学校が他の行事と重なって参加できなかったもので、できるだけ多くの中学生が参加できるよう日程調整をする必要がある。
9来年度以降の実施予定	来年度以降もこの事業を活用し、京丹波町内で開催されるスポーツの大会にはボランティアとして運動部員全員が参加できるよう継続・発展させていきたい。 今後は、運動部員だけではなく本校生徒全員が参加できるオリンピック選手を招聘した講演会等も計画していきたい。

京都新聞

2019年(令和元年)9月2日(月)

【地域】

# あやべラン11連覇

## 全京都車いす駅伝大会

京丹波町菅根の府立丹波自然運動公園一帯で1日に開かれた第35回全京都車いす駅伝競走大会と第29回全京都車いすミニ駅伝競走大会には、計20チームが出場し、選手たちは汗を流しながらゴールを目指して快

走した。車いす駅伝(4区間9・3ギ)では、郡市区町村の部で「あやべランニングスターズ」、クラブ・職員の部で「京都ステイヤーズB」がそれぞれ優勝した。須知高の生徒や園部高陸上部員、京都伝統工芸大学の学生ら32人が給水や伴走のボランティアとして大会を支えた。

(山合)輔、田中浩貴)22面参照

## 郡市区町村「力かみ合った」

綾部市の「あやべランニングスターズ」は今年も郡市区町村の部で優勝し、11連覇を果たした。他の2部を含めて

7月末から由良川の堤防を車いすで走ったり、次の走者につなげる中継の練習をしたりと短い時間で効率よく練習を重ねた。



3区吉村さん(右)からアンカー梅原君(トッパでタッチする「あやべランニングスターズ」京丹波町・府立丹波自然運動公園陸上競技場 撮影・辰口直史

レースでは、大会最年少で綾部小5年の1区の出口丞君(10)が「2人抜くことができた」と2区の中田達也さん(44)に中継。トップを走るチームに迫り、3区の吉村隆行さん49が「絶対に負けられない」と一気に追い抜いた。アンカーの梅原君は「緊張したが、1位でゴールできて良かった」と安心した表情。監督も務める中田さんは「チームの力がうまくかみ合って1位を取れた」と喜んだ。敢闘賞を受けた福知山市身体障害者団体連合会の監督兼選手で最高齢出場の河田忠夫さん(83)「35回の歴史の中で30回以上は出場している。長いこと続けることは大切」